

皇學館大学

研究シーズ集

令和5年4月発行

本研究シーズ集は、企業・自治体等の皆様との連携をより一層推進するため、本学研究者の研究内容や連携アピールを1課題1ページで紹介しています。

各研究課題をご覧ください、本学との共同研究や受託研究、地域の課題解決に向けた受託事業に関心をお持ちいただけましたら、ぜひご連絡ください。

研究開発推進センター

受託研究及び共同研究に関するお問い合わせ、お申込みは研究開発推進センターへご連絡ください。

皇學館大学

研究開発推進センター

〒516-8555

三重県伊勢市神田久志本町 1704 番地

TEL : 0596-22-6466

Mail : kenkyu@kogakkan-u.ac.jp

地域連携推進室

受託事業等に関するお問い合わせ、お申込みは地域連携推進室へご連絡ください。

皇學館大学

地域連携推進室

〒516-8555

三重県伊勢市神田久志本町 1704 番地

TEL : 0596-22-8635

Mail : kikaku@kogakkan-u.ac.jp

歴史・文化

国際理解・外国語

芸術・スポーツ

学校教育

産業・観光

健康づくり・食育

幼児教育・保健・子育て支援

数理・統計

ICT・メディアリテラシー

防災・減災

文学・言語学

地域づくり

社会教育・生涯学習

体験活動・ワークショップ

環境・地理

地域課題の可視化

研究キーワード



- まちづくり
人口減少、高齢化などの地域課題を調査、報告する
- 社会教育
わかりやすく地域課題を伝える住民ワークショップの開催

連携アピール



- 複数年に渡り、伊勢志摩地域の自治体より受託研究を受託しています。地域課題をなるべくわかりやすく地域住民の方にお伝えし、解決策をともに考えるワークショップの実施を行っています。

本研究の概要

- 東日本大震災で津波被災を受けた地域の地域自治会の再建について、現地でのアンケート調査などを実施しています。大規模災害時には地域課題が多く表面化すると考えられ、高齢化、地域のつながりの希薄化など、現地での地域コミュニティの維持、再建を研究しています。
- 被災地での学びは、三重県における災害への地域の備えに繋がります。それだけではなく、現地での学びは現在の私達の地域の課題解決につながると考えています。
- また、近隣市町からの受託研究のなかでは、近傍高等教育機関との連携によりアプリの開発を行ったり、地域の地形模型の作成及びそこへのGISデータの投射による住民ワークショップなどを実施しています。



地形模型作成の様子



宮城県でのアンケート

研究者



池山 敦 (いけやま あつし)
教育開発センター 准教授



日本の伝統文化教育

研究キーワード



- 伝統文化（景観・建築・工芸・芸能・芸道（茶道・華道）・武道など）
- 伝統産業（工芸（陶芸・染織・漆器・木工・金工・和紙・）など）
- 観光（接遇（ホテル・旅館・料理・菓子・もてなし・しつらい）など）

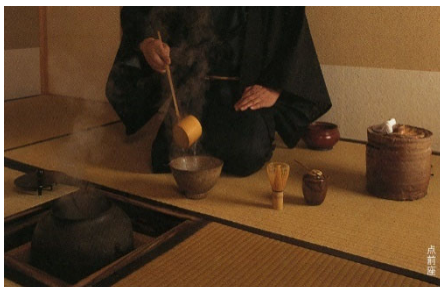
連携アピール



- 日本の伝統文化の全般について、調査・研究・教育をいたしております。東京生まれ→京都に17年→伊勢に13年となります。担当授業は「伝統建築論」「伝統工芸論」「伝統芸能論」「日本礼法論」などです。「茶の湯文化学会」の理事も務めております。
- 日本の伝統文化教育の再興、日本の心の再建をめざしております。
- 建築設計事務所勤務では、浦添市美術館、吹上新御所・京都迎賓館（計画）などを手掛けてきました。一級建築士、博物館学芸員資格を持ち、構想力、企画力、統合力を有し、「伊勢の伝統工芸展」展示・シンポジウム・映像、図録編集を手掛けました。
- 地域社会においては、文化催事、観光、おもてなし、産業、建築、工芸、芸能、茶道、華道、武道など、日本の伝統文化の発展、世界への発信に寄与させていただけましたならばと存じております。

本研究の概要

- 本研究は、日本の伝統文化をより正しく輝かしく継承してゆくことをめざしています。
- 育鵬社「中学・公民」教科書では、「日本の伝統文化の一覧表」を作成しました。
- 夏の教員免許状更新講習で、幼小中高の先生方にその方法を伝授しています。
- R03夏から翌夏まで1年間、派遣研究制度にて、ロンドン大学SOAS日本研究所の客員研究員として「英国における日本の伝統文化」など研究をさせていただきました。
- 伝統教育を通じて、日本人の心・大和魂が幾代までも伝えられていくことを祈っています。



研究者



岩崎 正彌（いわさき まさや）
現代日本社会学部現代日本社会学科 准教授



算数・数学教育における教授法に関する研究 可積分系の理論における研究

研究キーワード



- 算数・数学教育
小学校・中学校・高等学校における算数・数学教育全般
- 数学（解析学）
複素領域における微分方程式・特殊関数

連携アピール



- 算数教育分野においては、保育所、幼稚園、小学校、また、数学教育分野においては中学校、高等学校において I C T 機器や教材・教具を用いて算数・数学的活動を通じた出前授業の実施を行っていきたくと考えております。

本研究の概要

■ 算数・数学教育について

本研究の概要は、保幼小中高と成長していく中で学ぶ「算数・数学」において、どのように系統立てて学んでいくと児童生徒がより深く算数・数学を理解することができ、主体的に学習に取り組めるかについてです。また、小学校における問題解決学習のプロセスと、中学校・高等学校における課題学習をもとにした問題解決型の学習についても併せて追究していきたいと考えています。

■ 数学（解析学）

複素領域上の微分・差分方程式、およびその解として定義される特殊関数、特にパルヴェ方程式（以下の6つの微分方程式）について研究しています。

$$\begin{aligned}
 P_I: \quad & \frac{d^2 q}{dt^2} = 6q^2 + t, \\
 P_{II}: \quad & \frac{d^2 q}{dt^2} = 2q^3 + tq + \alpha, \\
 P_{III}: \quad & \frac{d^2 q}{dt^2} = \frac{1}{q} \left(\frac{dq}{dt} \right)^2 - \frac{1}{t} \frac{dq}{dt} + \frac{1}{t} (\alpha q^2 + \beta) + \gamma q^3 + \frac{\delta}{q}, \\
 P_{IV}: \quad & \frac{d^2 q}{dt^2} = \frac{1}{2q} \left(\frac{dq}{dt} \right)^2 + \frac{3}{2} q^3 + tq^2 + 2(t^2 - \alpha)q + \frac{\beta}{q}, \\
 P_V: \quad & \frac{d^2 q}{dt^2} = \left(\frac{1}{2q} + \frac{1}{q-1} \right) \left(\frac{dq}{dt} \right)^2 - \frac{1}{t} \frac{dq}{dt} + \frac{(q-1)^2}{t^2} (\alpha q + \beta) + \gamma \frac{q}{t} + \delta \frac{q(q+1)}{q-1}, \\
 P_{VI}: \quad & \frac{d^2 q}{dt^2} = \frac{1}{2} \left(\frac{1}{q} + \frac{1}{q-1} + \frac{1}{q-t} \right) \left(\frac{dq}{dt} \right)^2 - \left(\frac{1}{t} + \frac{1}{t-1} + \frac{1}{q-t} \right) \left(\frac{dq}{dt} \right) \\
 & + \frac{q(q-1)(q-t)}{t^2(t-1)^2} \left(\alpha - \beta \frac{t}{q^2} + \gamma \frac{t-1}{(q-1)^2} + \left(\frac{1}{2} - \delta \right) \frac{t(t-1)}{(q-1)^2} \right).
 \end{aligned}$$

研究者



上野 祐一（うえの ゆういち）
教育学部教育学科 助教



上代文学の研究

研究キーワード



- 上代文学
- 万葉集
- 古事記・日本書紀

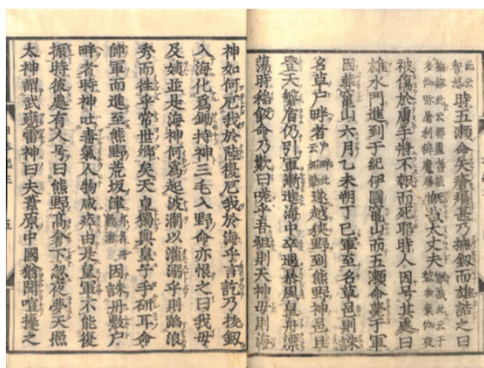
連携アピール



- 三重県には上代文学と関わる故地が多くあります。古事記・日本書紀では、神話や神武天皇東征・日本武尊（倭建命）などの話の舞台でもあります。万葉集では、大伯皇女・柿本人麻呂・聖武天皇・大伴家持をはじめ多くの歌が残ります。作品の理解を深めながら、その土地の魅力を発信することができればと思います。

本研究の概要

- 私の主たる研究は訓詁・注釈を通じた上代文学作品の理解です。万葉集・古事記・日本書紀などの古典ではその原本は存在せず、写本・版本しか残っていません。その中で諸本を比較検討しながら正しい本文と訓、解釈を導き出すことを行っています。上位文学作品には三重県の各地も登場します。作品の読解を通して、郷土への理解も深めることができればと思います。



研究者



大島 信生（おおしま のぶお）
文学部国文学科 教授



伊勢・志摩・伊賀の中世史

研究キーワード



- 日本中世史
平安時代後半から鎌倉・室町・戦国・安土桃山時代の歴史
- 地域史
伊勢神宮・伊勢国司北畠氏・伊勢平氏などに関する歴史
- 博物館学
文化財保護・古文書学・地域博物館の社会的役割など

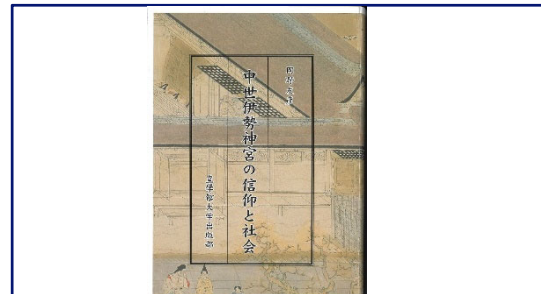
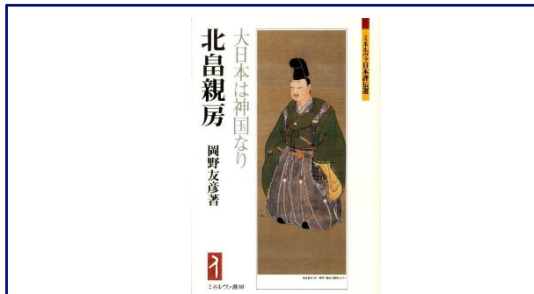
連携アピール



- 日本中世史を専攻し、三重県の中世史に興味を持っている関係から、中世の伊勢神宮や伊勢国司北畠氏、あるいは伊勢平氏について、地域からの講演依頼にお応えしてきた。また前職が博物館学芸員であった経験から地域の博物館や文化財保護に関係する仕事でも社会貢献している。

本研究の概要

- 本研究の概要は、平安時代の後半から鎌倉・室町・戦国・安土桃山時代にかけての伊勢・志摩・伊賀3か国の歴史について、地域の人々と連携しつつ解明していくとするものです。
- この研究テーマで、次のような講演実績があります。「かめやま中世文書のみどころ」（亀山市歴史博物館、2023年1月）、「天正伊賀の乱と伊賀惣国一揆」（名張市防災センター、2022年9月）、「伊勢国司北畠氏VS伊勢国人長野氏」（美里文化ホール、2022年6月）、「「北畠」から「藤堂」へー伊勢国の中世から近世へー」（津センターパレス、2022年4月）、「観光誘客と参宮名所図会」（賓日館、2021年11月）など。
- このテーマで、次のような著作があります。『北畠親房』（ミネルヴァ書房、2009年10月）、『中世伊勢神宮の信仰と社会』（皇學館大学出版部、2021年6月）。



研究者



岡野 友彦（おかの ともひこ）
文学部国史学科 教授



教育現場に求められる対応力・実践力の修得

研究キーワード



- 幼児教育・保育分野
乳児保育、子どもの保健、健康と安全の分野における研修
- 健康づくり分野
教育現場に必要な救急処置、食物アレルギー対応の研修
- 性教育分野
出前性教育講座

連携アピール



- 救急処置対応
保育・学校現場に求められる救急処置は、医療機関に搬送するまでの適切な手当てが求められます。教職員に対して、チーム学校の一員として教職員一人ひとりが自分の果たす役割について学び、課題を見出すための研修を提供します。また、子どもたちに対して、ケガや事故を防ぐための安全教育を実施するとともに、自分たちでできる救急処置の技術を身につけさせることや、再発防止のための講習を実施します。
- 性教育講話
人権教育を基本とした生きるための性（生）教育を提供します。包括的性教育に根差した、命の安全教育をはじめ、自己決定できる対応力や自分を大切にできる実践力を育みます。教職員、子どもだけでなく、保護者への講習なども可能です。

本研究の概要

- 学校で起きやすい事例をもとに、シミュレーション学習を行います。救急処置が必要な場面を再現し、どのような対応や連携が求められるのかを体験してもらうことで、救急処置に必要な知識と技術を修得し、今後の課題を参加者で共有します。
- 性教育における効果を、経時的に評価します。感染予防対策として、リアルタイムでの遠隔配信の性教育も実践しています。



研究者



小川 真由子（おがわ まゆこ）
教育学部教育学科 准教授



映像を用いた体育・保健体育授業の省察

研究キーワード



- 体育・保健体育（授業）
小中学校での授業をサポート
- 体育・保健体育（担当者）
アクティブラーニング、新学習指導要領への対応、小中連携の推進
- 剣道
児童・生徒・学生・一般（外国人を含む）に対するの剣道の普及と指導

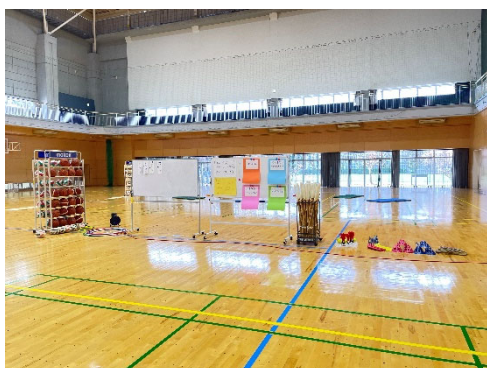
連携アピール



- 体育は苦手、児童に体育を指導するのは難しいと感じている先生方に寄り添えればと考えています。例えば逆上がりができなくても、児童に逆上がりをさせることは可能です。動きを言語化していくことでそれは可能となり、示範せずに達成へ導くこともできます。
- 運動嫌いな子ども、技ができなくて体育がつまらないと思っている子どもにも寄り添いたいと考えています。一人でも多くの児童・生徒が、体育って楽しいと思ってもらえるよう、お手伝いできればと考えています。

本研究の概要

- 体育・保健体育の模擬授業をVTRによる省察でサポートします。
- 運動が苦手な児童生徒をVTRによる省察でサポートします。
- ICTを用いた思考・判断を促す体育・保健体育授業の展開を一緒に考えていきます。



研究者



加藤 純一（かとう じゅんいち）
教育学部教育学科 教授



英語スピーキングの指導と評価

研究キーワード



- 小・中学校外国語教育
- 英語の授業づくり
- 話すこと [やり取り]

連携アピール



- 10年以上にわたり、県市町・小中学校主催の教員研修を200回以上担当し、授業研究の成果を活かしてきました。
- 最近では、英語のスピーキング力、とりわけ双方向で話す「やり取り」の力（対話能力）を向上させるための指導と評価について研究しています。

本研究の概要

- 指導についての研究：英語で会話をするには、話をふくらませたり続けたりする「対話能力」が欠かせません。「対話能力」を育成するため、小中学校では、Small Talkと呼ばれる活動が行われています。身近なトピックについて即興で話すSmall Talkの実践を分析した結果、児童・生徒同士で対話をした後、対話の続け方等コミュニケーション方略を指導し、その後もう一度同じトピックで対話をさせるのが効果的だとわかってきました。
- 評価についての研究：「対話能力」を評価するには、教師や面接者と話す「面接型」テストと学習者や受検者同士が話す「対話型」テストがあります（図1参照）。中級学習者以上の対話能力を評価するには「対話型」テストの方が妥当性が高いことがわかっています。しかし、初級学習者（英検準2級未満）の「対話能力」を「評価するには、どちらの形式のテストの方が妥当性が高いのかは明らかになっていません。そこで、初級学習者の「対話能力」を評価するには「面接型」テストと「対話型」テストのどちらが適切なのかを研究しています。

教師や面接者と話す「面接型」テスト

学習者や受検者同士が話す「対話型」テスト



図1. 対話能力を評価する2つのテストの型

研究者



川村 一代 (かわむら かずよ)
文学部コミュニケーション学科 准教授



伊勢・熊野の信仰と和歌

研究キーワード



- 地域観光
- 日本中世史
- 仏教学

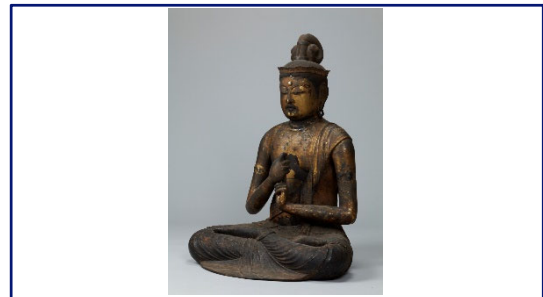
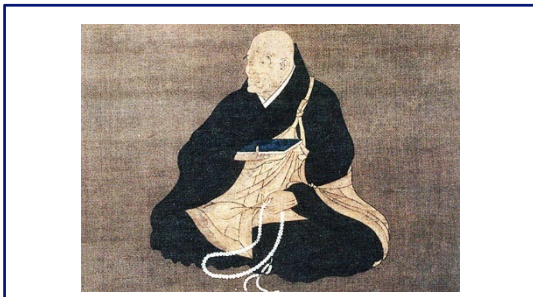
連携アピール



- 私の専門とする中世和歌において、和歌と仏教がタイアップして、「歌道」が作り上げられてゆく中で、伊勢や熊野は聖地となりました。平安時代から和歌は「百首歌」という形式で神仏へ祈願を届ける手段となっていました。中世和歌は祈りの言葉としての和歌を、宗教の信仰と同等の地平にまで高めました。そして、伊勢や熊野へのはるかな道程の苦しさを乗り越え、自然の風景に心を澄ます修行が西行の和歌の原形質であり、この文学と仏教の垣根を越えた融合は、芭蕉の『奥の細道』にも繋がっていったのです。

本研究の概要

- 本研究の概要は、中世の伊勢や熊野の神仏習合の信仰形態が、いかに中世和歌の本質につながる「原形質」となっていったかを解明するため、中世和歌の源流をなす西行、そしてその影響を受けて伊勢や熊野を信仰した中世の歌人たちについて悉皆的な調査を行うというものである。中世和歌はその本質において、近代的な自己とは相反する没個性的な類型性を抜きがたく抱え込んでいる。宗教信仰も、個々人のばらばらな思いを一つの共同性のうちに包摂するが、中世和歌もまたそれに類する「本の思想」を重んじ、本歌取りや、本意（もとの心）、歌の本体（＝『古今集』）、本地といった概念を追究していった。中世の国土観における伊勢や熊野は、超越的存在としての神仏が垂迹する「本」（もと）の地であったのではないかと、という見通しのもと、歌道仏道一如観の研究を日本中世史、仏教学、地理学とも連携しつつ行ってゆく。



研究者



木村 尚志（きむら たかし）
文学部国文学科 准教授



日本文化史における「耳なし芳一」

研究キーワード



- 日本文化史、日本中世史、日本史、文化振興活動
(日本の歴史や伝統文化に関する研究、教育、英語で発信する)
- 英語教育
(英語学習トレーニング)

連携アピール



- 日本文化史、日本中世史を研究しています。歴史的思考能力を培いながら、日本の歴史や文化をいかに英語で世界へ発信していくかということについて、講義・演習を行っています。大学では「Japan: Past and Present (日本：過去と現代)」のゼミ、「Japanese History and Culture」、「Shinto English」、「Tourism English」、「Global Japan」、「日本文化史」などの科目を担当しています。
- 通訳者・翻訳者養成にも携わった経験から、ビジネス・プロフェッショナル、外国人の接客、英語教員として求められる基礎知識とスキルの育成についても関心を持っています。

本研究の概要

- 日本文化の「物語」は「歴史」と「文学」の総合交渉によって生まれたと見なし、近代の思想史背景を確認しながら、代表的な文学（文字と言葉）と絵・動画（文字、言葉、色、線、音）がどのような物語を描写しているかを考察します。
- 現代で漫画化された時代像と照らし合わせながら、前近代の「伝統文化」と近現代の「大衆文化」の関係性についての理解を深めます。

「琵琶秘曲泣幽霊」(1782年)、「耳なし芳一」(1904年)



(富山大学蔵、国立国会図書館蔵)

THE STORY OF MIMI-NASHI-HOICHI

More than seven hundred years ago, at Dan-no-ura, in the Straits of Shimonoseki, was fought the last battle of the long contest between the Heike, or Taira clan, and the Genji, or Minamoto clan. There the Heike perished utterly, with their women and children, and their infant emperor likewise--now remembered as Antoku Tenno. And that sea and shore have been haunted for seven hundred years...

研究者



クリストファー・メイヨー
文学部コミュニケーション学科 教授



食支援から目指す健やかな育ち、健康維持

研究キーワード



- 食育
- 食物アレルギー児支援
- 子育て支援

連携アピール



- 将来にわたり健康を維持し、健康増進を図るための生活習慣を中心とした講演会活動を行います。
- 三重の食材などを活かした調理体験など、実践的体験活動を通じた食育事業を行います。
- 保育施設における食物アレルギー児対応について、保育者視点で演習を含め行います。
- 保育施設における保健管理・安全対応について演習を含め行います。

本研究の概要

- 関西圏、九州、東京都、三重県など、各地で保育士等キャリアアップ研修（食育・アレルギー対応、安全対策・保健衛生・安全対策を担当していますが、特に保育施設での食物アレルギー児担当の課題について研究をしています。
- 各地域で採れる新鮮な食材や伊勢茶など三重の食材を生かしたレシピを考案し、『素材から作るレシピ集』にまとめています。
- 乳幼児から高齢者まで心身ともに健やかに過ごすための生活習慣について、各地の講演会で講演しています。



研究者



駒田 聡子（こまだ あきこ）
教育学部教育学科 教授



ことばの資源性に関する研究

研究キーワード



- 文化振興活動
ことばを活用した地域づくり
- 地域社会活動
ことばを活用した防災・減災対策

連携アピール



- 地（知）の拠点整備事業（COC事業）の事業推進責任者として地域課題の解決に取り組んできました。ことばの調査を通じて学生が言語研究の方法を学ぶとともに、地域の文化的資源の活用についても広く関心を持ち、地域社会に貢献できるよう取り組みを進めています。
 - 「高知県西部の地震津波記念碑の伝承内容と方法について」（皇學館大学文学部紀要第60輯、令和4年3月）
 - 伊勢市の花・木・鳥選考委員会答申（伊勢市ホームページ、令和3年12月）
 - 三重県内ファミリーマート設置イーネットATMの方言音声案内の構築（平成28年12月）
 - 伊勢方言かるた（リントス、平成26年1月）

本研究の概要

- ことばのもつ社会的な役割を資源として捉え、商品化における提案とその効果について検証します。
- 「ことばは命を守るか」をテーマに防災・減災におけることばの伝承力を高める研究に取り組みます。



研究者



齋藤 平（さいとう たいら）
文学部国文学科 教授



理科教育における教材開発および授業実践

研究キーワード



- 理科教育学
 保育所、幼稚園、小学校生活科・理科、中学校理科、高等学校生物基礎・生物における昆虫を用いた教材の提供
- 環境教育学
 環境教育

連携アピール



- 理科教育分野では保育所、幼稚園、小学校、中学校、高等学校において昆虫を用いた教材の開発と出前授業、環境教育分野では昆虫を用いた生態系の展示や説明を行っています。このような分野で共同研究や地域に貢献することができればと思います。

本研究の概要

- 昆虫は生物としてヒトと共通する部分を多く持ち、その体の仕組みや特性は医学や工学にも応用される有用な生き物です。
- ヒトとの共通性を有する昆虫を用いた教材を開発し、保育所・幼稚園から高等学校に至るまで現場に提供することで、実感を伴った理解につながると考えられます(図1)。
- 本研究では、身近な存在である昆虫を用いた生活科および理科の教材を開発し、出前授業を通じた実践、アンケート調査から教育効果を検証しています(図2)。

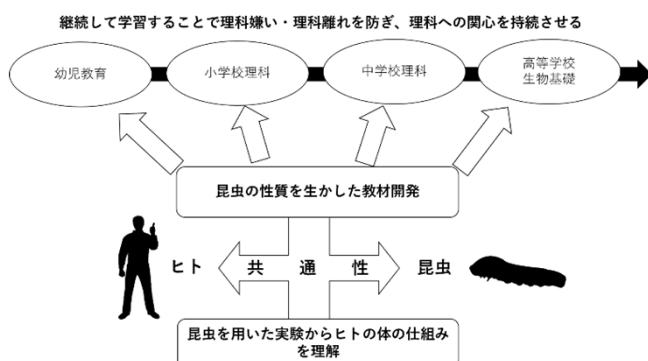


図1 昆虫を用いた教材開発のフローチャート



図2 出前授業の様子

研究者



澤 友美 (さわ ともみ)
 教育学部教育学科 助教



教育の方法と技術

研究キーワード



- 教師教育
養成、研修の分野で、教員の資質向上ために学校をサポートします。
- 学校組織マネジメント
学校を取り巻くさまざまな環境を的確に把握し、学校の有り様をその刻々と変化する環境の中に適応できるようサポートします。
- 授業改善(ICT活用含)
主体的・対話的で深い学びの実現に向けた授業改善に関し、授業方法(ICT活用・評価手法)に関するサポートをします。

連携アピール



- 学校組織マネジメントの観点から、「教員の資質向上」、「ICTの教育活用」、「学校教育に関わる諸課題の危機管理」等に関して、現状分析から、今後の方向性まで教育現場の視点からサポートします。

本研究の概要

- 世の中の変化が学校教育に大きく影響を及ぼしてきている現在、様々な教育方法に目を向け柔軟に対応できる教師の在り方を研究していきます。そのため、具体的な教育方法に着目しどのような共通点やバリエーションがあるかを探求していきます。
- 到達目標と次年度の取組でカリキュラムマネジメントを基に、様々な教育方法を活用し、継続的に授業改善を進めていくサイクルの確立を目指します。
- 学校教育に求められる様々な危機管理について、具体的事例をもとにして、組織的な対応の在り方を考えます。



教員の資質向上



ICT活用授業実践

研究者



勢力 稔 (せいりき みのる)
教育学部教育学科 教授



コンテンツを利用した地域コミュニティづくり

研究キーワード



- 社会教育・生涯教育
公共図書館及び地域コミュニティにおけるワークショップ
- 地域づくり
古典文学、絵本、新聞など身近なコンテンツを介在させたコミュニティづくり

連携アピール



- 公共図書館の館長として図書館を取り巻くステークホルダーとともに地域住民の集う場づくりを実践している。その自治体や近隣の高齢者向けに古典文学・地域資料の音読、アニメーションやビブリオバトルなどを通し、本を読む楽しさ、仲間づくり、それらの効用で免疫力を上げ、健康長寿を目指すワークショップを開催している。

本研究の概要

- 本取り組みの概要は、絵本、古典文学や図書館所蔵の地域資料などを音読することで脳のトレーニング、筋肉のトレーニングへとつなげ、無理なく、日常生活に取り入れられる健康長寿の方法を提案するものである。
- 自治体が主催する60歳以上の市民向け「シルバーカレッジ」などで、身近な新聞を使ったゲーム、古典文学・絵本を使った音読やアニメーション、ビブリオバトルなどを組み合わせて楽しみながら頭と身体を使って健康長寿を目指すワークショップを企画運営。
- 音読の魅力に加え、介護予防指導士とともにオリジナルな運動やコミュニケーションゲームも取り入れたワークショップは、地域でともに健康に暮らすための提案型講座として新型コロナウイルス感染症の影響下においても、それぞれのコミュニティでの参加者は延700人を超える。



研究者



千邑 淳子 (ちむら じゅんこ)
文学部国文学科 准教授



憲法問題の解明

研究キーワード



■ 憲法学

憲法問題の解説（人権、安全保障、憲法改正問題）、選挙啓発

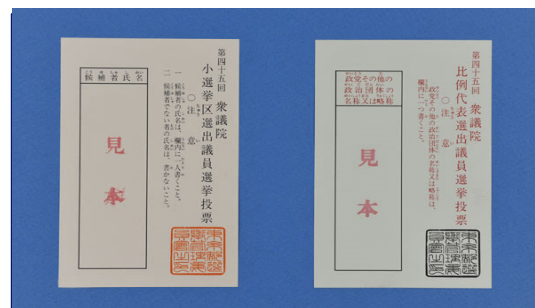
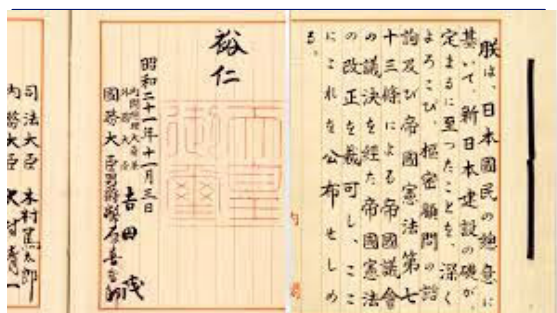
連携アピール



- 人権施策や第9条をめぐって生じている問題の理解を深めます
- 憲法改正問題（地方自治制度を含む）について理解を深めます
- 選挙の意義や選挙制度に関する問題について理解を深めます

本研究の概要

- 憲法改正に関して、両議院の憲法審査会の議論や政党その他の各種改憲試案を取り上げて、その特徴や問題点を考察します。
- 人権に関する重要な判例の論点や国会での立法をめぐる議論について考察します。
- 憲法第9条に関して生じている自衛権の範囲や行使の問題、自衛隊の活動などについて考察します。
- 選挙に関して生じている選挙制度のあり方や低投票率の問題などについて考察します。



研究者



富永 健（とみなが たけし）
現代日本社会学部現代日本社会学科 教授



昆虫の自然免疫と寄生蜂による寄生戦略の解明

研究キーワード



- 応用動物昆虫学（昆虫生理学）
生体防御 寄生蜂に関する研究
- 生物教育学
昆虫の血球の生体防御に関する教材の提供、生物教育学会実験サポーター（小学校～社会人）
- 理科教育学
小学校理科出前授業、昆虫展、環境教育

連携アピール



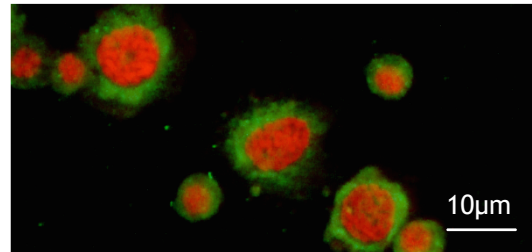
- 理科教育分野については、昆虫を使った生理・生態系の展示説明、生物教育分野に関しては昆虫を使った実験・観察（出前授業も可）、応用動物昆虫分野では昆虫の免疫や寄生蜂を使った共同研究が可能。

本研究の概要

- 昆虫は脊椎動物の生体防御と共通する自然免疫を持っています。自然免疫とは誰しも生まれつき持っている免疫システムで、体内に侵入してきた異物を食作用などで排除します。
- 本研究の目的はチョウ目ヤガ科のアワヨトウを用いた、自然免疫の研究からヒトとの共通性を見出すことです。
- また、寄生蜂は寄主(宿主)の生体防御を巧みな戦略で回避して、寄生を成功させます。その寄生戦略を探り、農業における生物防除技術への応用を目指します。



アワヨトウ幼虫に産卵するカリヤサムライコマユバチ成虫



アワヨトウ幼虫の血球（核：PI（赤）、anti C-type lectin My-IML antibody（緑））

研究者



中松 豊（なかまつ ゆたか）
教育学部教育学科 教授



図画像資料を用いた近代景観の研究

研究キーワード



- ①歴史・伝統文化
〈近現代史〉
満洲経営、日中関係史、戦後の引き揚げに関する研究
- ②文化振興活動
 - ◆地域に眠る未公開の歴史資料（近代）の調査と公開
 - ◆近現代の図画像資料（古写真や絵葉書等）や音源を歴史研究だけでなく観光など地域振興に活用する

連携アピール



- 近現代の図画像資料（古写真や絵葉書、版画、鳥瞰図など）を用いて、歴史的な景観や失われた建築の姿を明らかにし、当時の人々の社会・空間等に対する認識を分析する研究にも取り組んでいます。また、個人の自宅や神社、寺院などに未公開のまま残された歴史的資料の調査と整理を行い、研究資源や地域の観光振興のための資源として公開する活動も行っています。過去には、古写真の情報を手掛かりにして、空襲で焼失した寺院の扁額の復元を行ったり、戦前期の伊勢を撮影した映像を発掘してメディアで紹介したりしました。また伊勢地域に関連する音源（SPLコード）の調査も行い、三重県主催の講座で活用しました。研究室では計数千点の戦前の絵葉書・戦前の観光ガイド・SPLコードなどを所蔵しており、書籍の出版や展覧会、自治体の印刷物等に資料を提供し、活用を図っています。

本研究の概要

- ①満洲経営に対する肯定的な世論が国内で形成された背景をプロパガンダや教育内容などから分析し、日本と満洲地域の関わりについて多面的に明らかにします。また、宗教（特に仏教）を通じた日中交流や、中国における学術調査（東亜同文書院など）について調べています。満蒙開拓団の引揚げ後の生活再建について、特に天理教開拓団（満洲天理村）を事例として三重県内での戦後再開拓を分析しています。
- ②写真や絵葉書などの図画像資料からは、失われた景観や文化の在り様を知ることができます。描かれたもの・写されたものと文字史料をクロスしながら歴史資料としての活用方法を探り、分析を進めています。



満洲土産の絵葉書（1930年代）



近代伊勢の観光案内（1930年代）

研究者



長谷川 怜（はせがわ れい）
文学部国史学科 助教



若者による地域社会活動の教育的効果と地域に与える影響

研究キーワード



■ 地域社会活動

アンケート調査やインタビュー調査など社会調査の技法を用いた、地域や教育に関わる共同研究

連携アピール



- 社会調査関連で連携したり、また地域社会研究や茶業研究会の「宇治山田の和紅茶」や「常若のしずく」、三重県・地元企業とコラボをしている「ウツボ活用プロジェクト」や「持ち帰りスイーツプロジェクト」を活用して別の商品を開発したり、新たな商品を開発する時に連携したい。

本研究の概要

- 本研究は若者による地域社会活動の教育的効果ならびに地域に与える影響をテーマにしています。
- すでに、本学の地域社会研究会や茶業研究会、CLL活動、ゼミにおいて、和紅茶の「宇治山田の和紅茶」や「常若のしずく」などの商品を企画・開発しています。
- 本研究では、その活動を通して、参加した学生にどのような教育的効果があったのか、また関係した地域にどのような影響を与えたのか、についての新たな知見を探っています。



研究者



藤井 恭子 (ふじい きょうこ)
現代日本社会学部現代日本社会学科 准教授



国際政治、米中関係 日本の外交安全保障

研究キーワード



- 国際戦略
企業や自治体が海外戦略を立案する際に、その基盤となる国際情勢についての認識理解とともに深める。

連携アピール



- 幅広い層を聴衆としての講演実績あり

本研究の概要

2024年11月に大統領選挙を迎える米国の動向は、日本だけでなく世界に大きな影響を与えようとしている。バイデン民主党政権は、ロシアによるウクライナ侵略への対応を始め、同盟重視を前面に掲げている。

一方で近年の中国は、特に習近平指導部発足以降、極めて強硬な対外政策を展開している。米中関係は覇権を巡る争いと化し、台湾情勢は急速に緊迫の度合いを増している。

我が国は、令和4年12月に国家安全保障戦略を改定し、防衛力強化の方向性を打ち出した。最新の動向を踏まえつつ、当課題について研究を進める予定だ。



研究者



村上 政俊 (むらかみ まさとし)
現代日本社会学部現代日本社会学科 准教授



正解のない世界と正解を求める 現代教育の狭間に挑む

研究キーワード



- 文理融合による統合的研究：創造性とはなにか？ノーベル賞の発想に学ぶ「出来ないことこそ創造の原点」
- 芸術と心理学の統合的研究：描くこと、一人ではないことへの気づきによる「心と身体と運動の統合に向けて」
- 未来創成学の展望と創造性：他者との競争から、自他一如の「共創」による輝かしい未来創造の展望

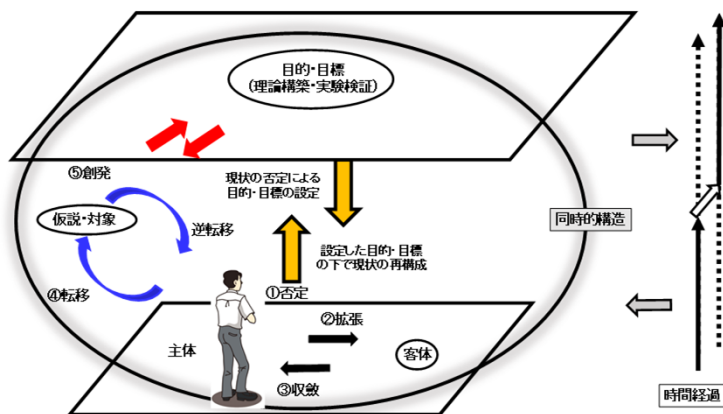
連携アピール



- すべての鍵は、自分自身の「ものの見方」にあります。「ものの見方」を変えると、それまで「目に見えなかった世界」が色鮮やかに輝きはじめ、語りかけはじめてくれます！
- 私たちは、「遊び」と「学び」を分けて考えがちですが、「遊び」と「学び」のどちらも享受することで、「共創と調和の循環」を実践することになります。もちろん、みなさんにも、そのような機会を創り出すパワーがあるのです。

本研究の概要

- 本研究の課題：「如何にして、正解のない世界と正解を求める現代教育の狭間に挑むか」、すなわち、「どうすれば、二項対立を乗り越え続けることができるか」。これが、本研究の課題です。重要な観点は、二項対立を乗り越え続けるには矛盾の活用が不可欠であるということです。失敗によって学ぶこと、真剣な遊びを通して物事の本質を学ぶこと、病いを体験して、健康に目覚めること。
- すべての体験において、創造性が求められます。



研究者

村瀬 雅俊 (むらせ まさとし)
教育学部教育学科 教授

